企画展

宮坂家文書にみる
立川流山車彫刻の下絵





諏訪市博物館所蔵の宮坂家文書（諏訪市有形文化財）の中から、約50点の立川流山車彫刻の下絵を展示します。

令和8年
11/14(土) ▶ 11/29(日)



〒475-0928 愛知県半田市桐ヶ丘4丁目209番地の1
半田市立博物館
TEL (0569)23-7173

開館時間：10:00 ～ 18:00
休 館 日：11/16(月)、11/24(火)
協　　力：諏訪市博物館

半田市立博物館
公式ホームページ

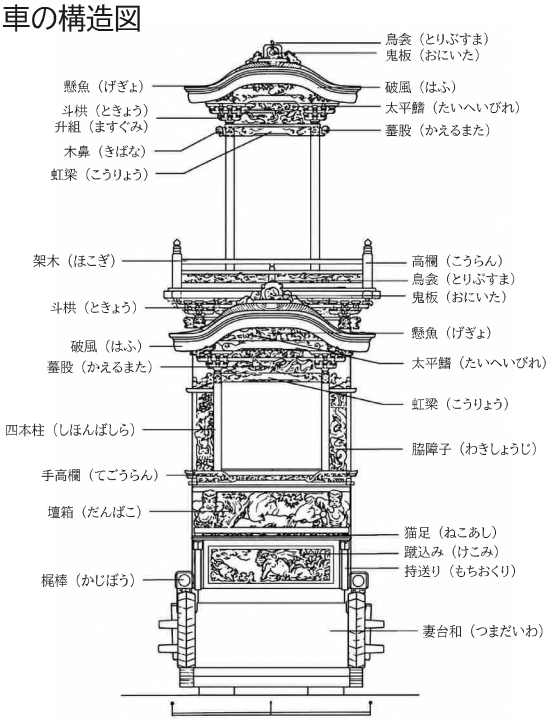
半田市立博物館
公式 Instagram

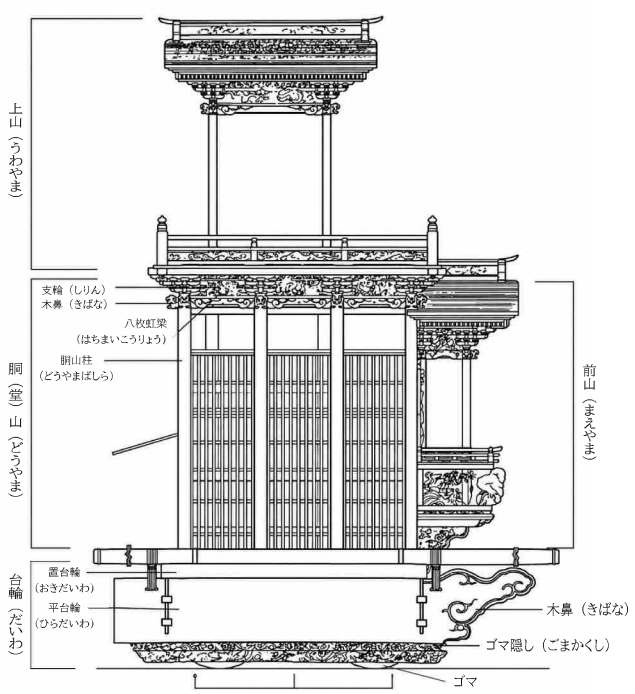
1．半田の山車彫刻の歴史

知多地方には、古くから堂宮師と呼ばれる優れた宮大工が多くいました。天明・寛政の頃から明治前半にかけて活躍した横松村（現・阿久比町）の岸幕善兵衛一門は、知多地方の社寺建築のほか多くの山車の建造や彫刻を手掛けていました。しかし、文化・文政の頃になると、名古屋の早瀬長兵衛や瀬川治助、諏訪の立川和四郎一門など、各地の彫刻師が山車彫刻を手掛けるようになり、それぞれの特色ある図柄や技法によって山車を飾りました。

18世紀頃までの山車彫刻は、日光東照宮に代表されるような漆塗りや箔押しによる彩色を施したものが主流でした。現在のような木肌を活かした素木の彫刻が山車に取り入れられたのは、文政の頃、立川和四郎一門が亀崎の山車に施したのが始まりとされています。19世紀中頃までに立川和四郎冨昌や立川常蔵昌敬らによって完成された山車彫刻の形態は、その後、半田出身の彫常一門（初代・新美常次郎、二代・新美茂登司）らへと継承されていきました。

山車の構造図





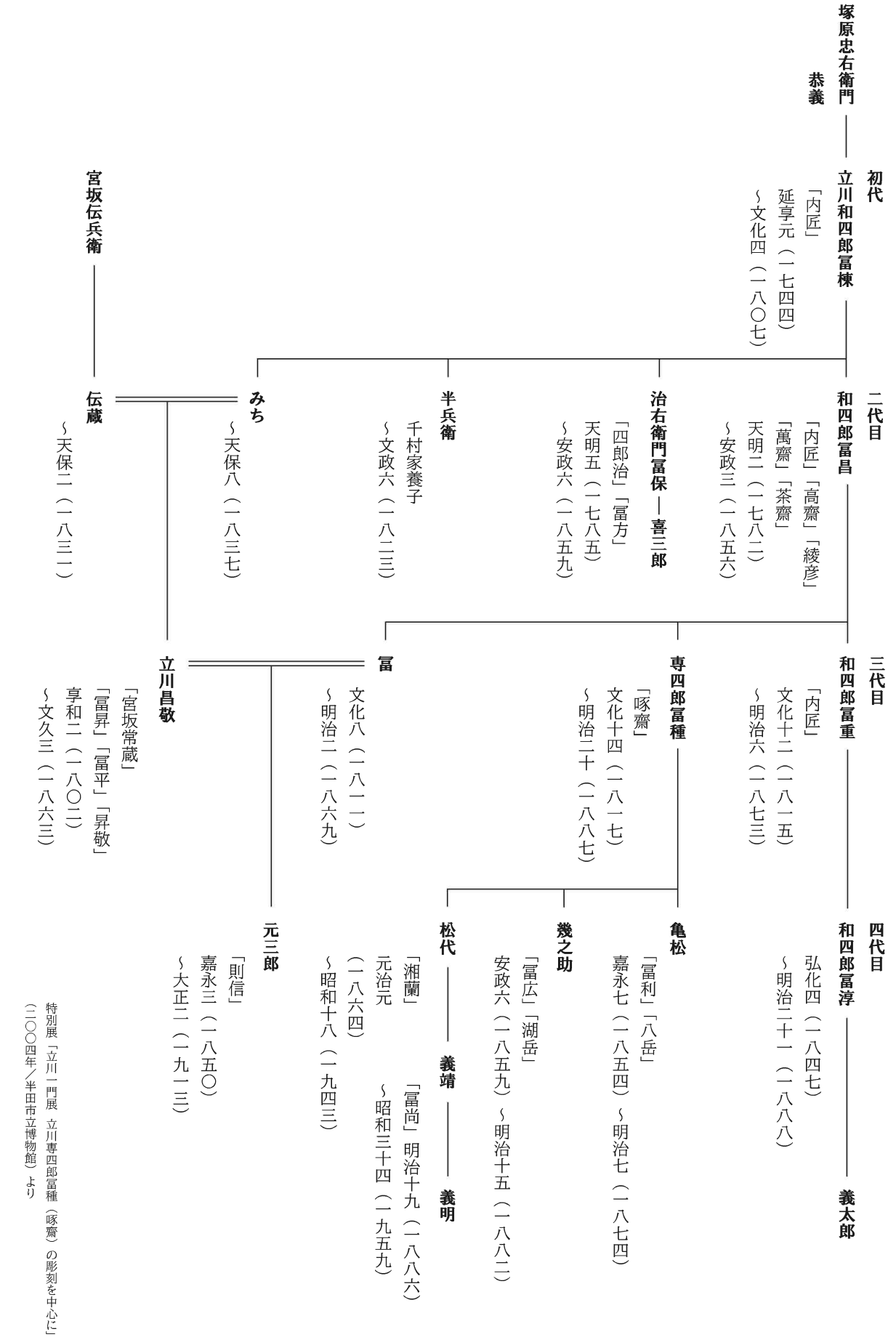
2．立川一門について

立川一門は、18世紀頃から諏訪に拠点を置き、各地の社寺建築や彫刻を手掛けた彫刻師の一門です。初代・立川和四郎冨棟は、延享元年（1744）に諏訪の塚原家に生まれ、江戸の幕府御用大工棟梁・立川小兵衛冨房のもとで建築技術を学びました。その後、彫師の中澤五兵衛に師事して宮彫りの技術を習得し、諏訪で活動を始めます。安永六年（1777）には、諏訪大社下社秋宮の幣拝殿の再建に着手（同九年に上棟）し、さらに享和二年（1802）には駿府浅間神社（現・静岡浅間神社）の彫刻工事を手掛けるなど、各地で活躍しました。

二代・立川和四郎冨昌の時代になると、建築に加えて彫刻にも力を注ぐようになります。冨昌は、長男の三代・冨重、次男の冨種、娘婿の宮坂昌敬（立川昌敬）らを育て、自らの技術を継承しました。やがて、立川一門は宮大工から彫刻を専門とする彫刻師へと活動の中心を移していきます。

山車彫刻の制作は冨昌の時代に始まり、文政九年（1826）に亀崎中切組力神車の彫刻を手掛けたのを契機に、それ以降、冨昌と昌敬を中心に各地で山車彫刻の制作を行うようになりました。特に半田市内には多くの作品が残されており、立川一門の優れた技術と芸術性を今に伝えています。

3．立川家主流系譜



特別展「立川一門展　立川専四郎冨種（啄齋）の彫刻を中心に」
（二〇〇四年／半田市立博物館）より

4．立川流山車彫刻の下絵

※下絵はすべて諏訪市博物館蔵
宮坂家文書（諏訪市有形文化財）より

亀崎中切組力神車



▲ 前山 壇箱 前の方「海棠に親子鶏」（立川和四郎冨昌）



▲ 前山 蟇股 前「子持龍」（立川和四郎冨昌）

亀崎田中組神楽車



▲前山 蟇股 正面「三国志（桃園の誓い）」（立川常蔵昌敬）



▲前山 檀箱 左「蟇仙人」（立川常蔵昌敬）



▲前山 檀箱 右「鉄拐仙人」（立川常蔵昌敬）

亀崎西組花王車



▲前山 蟇股 正面「雀の群舞」（立川和四郎冨昌）

上半田南組福神車





▲ 前山 檀箱 正面「七福神」
（立川和四郎冨昌）





◀ 前山 檀箱 右側面「恵比寿」
（立川和四郎冨昌）

下半田北組唐子車





◀ 前山 檀箱 右端「右手に団扇を持つ唐子」（立川常蔵昌敬）



▲ 前山 脇障子 左「手長足長」
（立川常蔵昌敬）



▲ 前山 脇障子 右「手長足長」
（立川常蔵昌敬）

成岩南組南車



▲前山 檀箱 正面 左「龍」（立川和四郎冨昌）



▲前山 檀箱 正面 右「馬師皇」（立川和四郎冨昌）



成岩東組旭車





◀前山 檀箱 正面 左端「左手で支える唐子」（立川和四郎冨昌）



▲前山 脇障子 左「鉄拐仙人」
（立川和四郎冨昌）



▲前山 脇障子 右「蟇仙人」
（立川和四郎冨昌）

企画展「宮坂家文書にみる立川流山車彫刻の下絵」 展示資料一覧

No.	山車名	各部名称	下絵図柄 等	作 者	彫刻制作年
1	亀崎中切組力神車	前山 桁隠し 左	鳳凰	（立川作）	年代不詳
2		前山 桁隠し 右	鳳凰	（立川作）	年代不詳
3		前山 蟇股 前	子持龍	立川和四郎冨昌	文政十年（1827年）
4		前山 太平鰭 左	二十四孝 剡子	立川常蔵昌敬	天保十二年（1837年）
5		前山 太平鰭 右	二十四孝 猟師	立川常蔵昌敬	天保十二年（1837年）
6		前山 脇障子 左	黄石公馬上	立川和四郎冨昌	文政十年（1827年）
7		前山 脇障子 右	張子房乗龍	立川和四郎冨昌	文政十年（1827年）
8		前山 壇箱 前の方	海棠に親子鶏	立川和四郎冨昌	文政十年（1827年）
9		前山 壇箱 奥の方	雛に川の流れ	立川和四郎冨昌	文政十年（1827年）
10		前山 持送り	立波に千鳥	立川常蔵昌敬	年代不詳
11		胴山 蟇股 右一	費張房仙人	立川常蔵昌敬	文政十一年（1828年）
12		胴山 蟇股 右二	通玄仙人	立川和四郎冨昌	文政十一年（1828年）
13		胴山 蟇股 右三	西王母仙人	立川常蔵昌敬	文政十一年（1828年）
14		胴山 蟇股 後右	鉄拐仙人	立川和四郎冨昌	文政十一年（1828年）
15		胴山 蟇股 左一	金甲仙人	立川常蔵昌敬	文政十一年（1828年）
16		胴山 蟇股 後左	蟇仙人	立川常蔵昌敬	文政十一年（1828年）
17		胴山 蟇股 左二	馬師皇仙人	立川和四郎冨昌	文政十一年（1828年）
18		胴山 蟇股 左三	藍敖仙人	立川和四郎冨昌	文政十一年（1828年）
19		上山 太平鰭 前	鳳 凰	（立川作）	年代不詳
20	亀崎田中組神楽車	前山 檀箱 正面 奥の方	欄亭の庭	立川常蔵昌敬	天保八年（1837年）
21		前山 檀箱 正面 前の方	花鳥	立川常蔵昌敬	天保八年（1837年）
22		前山 檀箱 左	蟇仙人	立川常蔵昌敬	天保八年（1837年）
23		前山 檀箱 右	鉄拐仙人	立川常蔵昌敬	天保八年（1837年）
24		前山 蟇股 正面	三国志（桃園の誓い）	立川常蔵昌敬	天保八年（1837年）
25		前山 脇障子 左	趙雲に阿斗	立川常蔵昌敬	天保八年（1837年）
26		前山 脇障子 右	張合（郃）	立川常蔵昌敬	天保八年（1837年）
27		胴山 蟇股 左二	大黒天	（立川作）	天保八年（1837年）
28		胴山 蟇股 左三	福禄寿	立川常蔵昌敬	天保八年（1837年）
29	亀崎西組花王車	前山 蟇股 正面	雀の群舞	立川和四郎冨昌	弘化三年（1846年）
30		前山 蟇股 奥の方	稲穂に雀	立川和四郎冨昌	弘化三年（1846年）
31		前山 蟇股 左側外	雀の群舞	立川和四郎冨昌	弘化三年（1846年）
32		前山 蟇股 右側外	雀の群舞	立川和四郎冨昌	弘化三年（1846年）
33	上半田南組福神車	前山 脇障子 左	崑崙坊人	立川常蔵昌敬	弘化三年（1846年）
34		前山 脇障子 右	崑崙坊人	立川常蔵昌敬	弘化三年（1846年）
35		前山 檀箱 正面	七福神	立川和四郎冨昌	弘化三年（1846年）
36		前山 檀箱 右側面	恵比寿	立川和四郎冨昌	弘化三年（1846年）
37		前山 檀箱 右側面	弁天	立川和四郎冨昌	弘化三年（1846年）
38		前山 檀箱（下絵）	弁天・布袋・毘沙門	立川和四郎冨昌	弘化三年（1846年）
39		前山 檀箱（下絵）	大黒・福禄寿・恵比寿・寿老人	立川和四郎冨昌	弘化三年（1846年）
40		前山 檀箱 左側面	寿老人・大黒	立川和四郎冨昌	弘化三年（1846年）
41	下半田北組唐子車	前山 檀箱 左端	両手で支える唐子	立川常蔵昌敬	天保九年（1838年）
42		前山 檀箱 右端	右手に団扇を持つ唐子	立川常蔵昌敬	天保九年（1838年）
43		前山 檀箱 中央	子を抱く唐子・亀を持つ唐子	立川常蔵昌敬	天保九年（1838年）
44		前山 脇障子 右	手長足長	立川常蔵昌敬	天保九年（1838年）
45		前山 脇障子 左	手長足長	立川常蔵昌敬	天保九年（1838年）
46	成岩南組南車	前山 檀箱 正面 左	龍	立川和四郎冨昌	文政年間
47		前山 檀箱 正面 右	馬師皇	立川和四郎冨昌	文政年間
48	成岩東組旭車	前山 脇障子 左	鉄拐仙人	立川和四郎冨昌	弘化三年（1846年）
49		前山 脇障子 右	蟇仙人	立川和四郎冨昌	弘化三年（1846年）
50		前山 檀箱 正面（元図）	唐子と鶏	立川和四郎冨昌	弘化三年（1846年）
51		前山 檀箱 正面 左端	左手で支える唐子	立川和四郎冨昌	弘化三年（1846年）
52		前山 檀箱 正面 右端、右側面	鶏を抱く唐子・鳥かご	立川和四郎冨昌	弘化三年（1846年）
53		前山 檀箱 右側面	右手に団扇を持つ唐子	立川和四郎冨昌	弘化三年（1846年）

主要参考文献

・『半田市誌 祭礼民俗篇』（1984年／半田市）
・『山車彫刻の技 立川一門を中心に』（1990年／半田市立博物館）
・『宮坂文書による立川流建築彫刻下絵図集』（1998年／石井茂）
・『半田の山車彫刻と下絵』（2001年／半田ライオンズクラブ40周年記念特別事業委員会）
・『特別展「立川一門展 立川専四郎冨種（啄齋）の彫刻を中心に」』（2004年／半田市立博物館）
・『亀崎潮干祭総合調査報告書』（2005年／半田市・亀崎潮干祭国指定推進委員会ほか）
・『諏訪の工匠・立川一門 ―社寺建築と山車彫刻―』（2015年／諏訪市博物館）
・『半田の山車ガイドブック』（2022年／半田市・半田市教育委員会）